

広報京丹後 11月号（10月25日発行） 抜粋



修理現場を公開

本市最古の木造建築で国指定重要文化財
久美浜
天乎二年
創建
本願寺本堂

重厚かつ柔らかな曲線を作り出す檜皮葺の技術は「伝統建築工匠の技」として令和2年にユネスコ無形文化遺産に登録された




①職人が竹釘の打ち方を参加者に説明 ②2枚の檜皮を檜皮包丁の先端を使って縫い合わせる ③久美浜中学校生徒が檜皮の「拵え（こしらえ）」を見学 ④太いロープの両端に木の棒を括り付けた振り縄を使って木に登る

本願寺本堂と檜皮葺き

・本願寺は、703（天平2）年の奈良時代に行基が開いたと伝わる寺で、本堂は市内で最古の木造建築として鎌倉時代後期のものと考えられています。

・檜皮葺きは、日本に古くから伝わる屋根葺の技法で、檜から皮を剥ぎ、大きさを整えて水に漬けて濡らします。その後、竹釘を用いて檜皮を等間隔にずらしながら屋根に留めています。



檜皮葺の表層

多くの市民に文化財の重要性や保存修理の必要性、地域の歴史文化の継承の大切さを知ってもらうことを目的として9月28日、普段見ることができない文化財の修理現場を一般公開しました。この日、事前に申し込んだ約60人が参加し、修理の解説などに熱心に耳を傾けました。

また、一般公開に先立ち9月10日には、かぶと山小学校5年生の児童たちと久美浜中学校1年生の生徒たちが修理現場を訪れ、竹釘を使って檜皮を留める体験や、檜から採取した檜皮を成形する「拵え（こしらえ）」作業、振り縄を使って境内の木に登る様子などを見学しました。